

久居消防団紹介



津市久居消防団長 田中 征宏

団長を拝命して二年半、津市久居消防団と名称こそかわりましたが、心意気は諸先輩が築かれた歴史と伝統を継承し、合併の主旨に沿い消防団のあるべき姿に努力していきたく思っています。当消防団は、七人の副団長と、十一人の分団長、総勢二百七十四名の団員で構成され、団員が一丸となって市民の生命、財産を守るため日常の訓練を行うなど、団員の士気は極めて高いと感じております。特に平成八年には、女性消防団を結成し、火災予防活動などを積極的にを行っています。

昨年は、一昨年のような大型台風が発生は少なく推移をいたしました。台風十四号の集中豪雨により市内三十一戸が床上浸水、また主要路冠水による多数の通行止めが発生し、

消防団員による警戒を行ったほか、消火活動、行方不明者の捜索、年末警戒活動や定期的な訓練に出動し、災害などに対応して参りました。さらに、全国各地で大きな地震が発生しており、近づいていると言われてる東海・東南海・南海地震の発生に備えて様々な訓練を重ねています。

今後とも、自主防災及び自治会による防災訓練などを通じ、防災意識の高揚に一層の努力をして参ります。当消防団は、団員の確保、活性化対策など多くの取り組みべき問題がありますが、団長として新たな気持ちで団員と共に消防・防災活動に努力して参ります。



旧久居市消防団操法大会にて

水の事故に備えて水難救助訓練を実施

六月二十一日に美杉町の君ヶ野ダム湖畔で久居消防署・白山消防署合同、六月二十八日には、安濃町の安濃川で、中消防署・北消防署合同の水難救助訓練が行われました。久居・白山消防署合同訓練では、ロープで樹木を利用しての結索救助訓練、ゴムボートの組み立てと操船訓練、また酸素ボンベを使用するの潜水器具装着訓練が行われました。



潜水器具装着訓練



ボート組立て・操船訓練



溺者救助訓練



ロープ結索救助訓練

中・北消防署合同訓練では、水上安全法や溺者救助訓練、山岳救助資器材による溺者引揚げ訓練、ホースエアライン設定訓練などが行われ、両訓練とも参加した署員は、真剣な眼差しで訓練に取り組んでいました。



山岳救助資器材取扱説明



ホースエアライン設定訓練

二十一日の久居・白山消防署合同訓練では鈴木美昭消防署長が、二十八日の中・北消防署合同訓練では、鎌田繁一消防次長が、合併で広範囲になった津市には、ダムや河川、海岸などがあり、高度な救助技術が要求

される、有事即応体制を図るため、日々の訓練に精進するよう講評しました。